

【報道関係各位】

株式会社エイジス
特定非営利活動法人バードリサーチ
2019年2月××日

【取材のご案内】
NPO×企業＝社会課題解決
宮城県のハクチョウ調査をNPOと企業で共同実施しました

■概要

株式会社エイジス(千葉市花見川区)と認定NPO法人バードリサーチ(東京都府中市)は共同して、2019年1月31日(木)に、宮城県の鳴瀬川でハクチョウ類のカウント調査を行いました。これまでの鳥類のモニタリング調査は、個人のボランティアによる調査によって行われることが主でした。今回の試みは、日本ではほとんどみられない、NPOと企業の社会貢献活動によって実現される、鳥類のモニタリング調査の新しい形を提案するものです。

株式会社エイジスは、国内棚卸ビジネスにおいてシェア約8割を占め、流通小売業中心に国内外約2,500社のクライアントを抱えております。業界内で唯一47都道府県をカバーしており、日本国内はもちろん、アジア各国でもサービスを提供しています。いわば「カウントのプロ集団」であり、このノウハウと、バードリサーチが持つ鳥類調査のノウハウを合わせることで、社会課題とされている「鳥類調査の調査員不足」の問題解消を目指します。

■背景

鳥類の保全や環境モニタリングに活用されている鳥類の分布や個体数のデータの多くはボランティア調査員によって集められています。しかし、年々ボランティア調査員の不足が続いており、このままでは環境省やNPOが行っている調査の継続が困難となります。そこで、株式会社エイジスの社会貢献活動の一環として、鳥類のモニタリングによる環境調査を実現しました。



宮城県鳴瀬川での調査風景

■今回のポイント

鳥類調査は鳥類の保全や環境のモニタリングに不可欠

日本ではこれまで15種の鳥類が絶滅しており、今なお、数多くの絶滅危惧種が存在してい

ます。鳥類を保全し、次世代に残すためには、各鳥類の置かれた現状を把握し、有効な対策を講じる事が最も重要です。また、環境ごとに生息している鳥類は異なるため、環境が変化すると、鳥類の個体数や生息している種の構成も変化します。つまり、鳥類をモニタリングする事で、環境の変化も捉える事ができます。

深刻な調査員不足が社会課題に

環境の変化を捉えるために、環境省などの行政や、バードリサーチなどのNPOは鳥類のモニタリング調査を全国で行っています。モニタリング調査は広範囲で継続的に実施する必要があるものの、予算に限りがあるため、多くの調査はボランティア調査員が実施しているのが現状です。しかし近年では、ボランティア調査員の担い手を確保することが非常に困難となっています。また、鳥類調査には主に鳥類の種の識別と、カウントという専門的なスキルが必要のため、調査員の確保は容易ではありません。

「カウントのプロ集団」として協力し、調査員不足を解消！

株式会社エイジスは、調査員不足を解消するために、バードリサーチと共同で調査を実施する事にしました。株式会社エイジスは棚卸ビジネスを全国で展開しており、在庫数を数えるといった仕事をしています。言わば「カウントのプロ集団」であるエイジスのスキルが鳥類調査に活かされると考えています。

日本有数の飛来地で、ハクチョウ類の調査を実施

2019年1月31日(木)、宮城県の鳴瀬川でハクチョウ類などの調査を株式会社エイジスとバードリサーチで実施しました。ハクチョウ類は極東ロシアで繁殖し、冬になると日本に渡り、冬を越しますが、鳴瀬川は日本でも有数のハクチョウ類の飛来地です。この場所を継続的に調査する事で、渡ってくるハクチョウ類の増減が分かり、また鳴瀬川やその周辺環境に変化が起きた時にいち早く捉えられる事が期待できます。今回の調査では、鳴瀬川の鳴瀬大橋から木間塚橋までを調査し、オオハクチョウ 124羽、コハクチョウ 2,768羽を確認しました。

今回の調査はバードリサーチと共同で実施しましたが、株式会社エイジスの従業員だけで実施できるように、鳥類調査のトレーニングも実施していきます。

環境省事業との連携

バードリサーチは環境省が実施している重要生態系監視地域モニタリング推進事業(以下、モニタリングサイト1000)のガンカモ類の調査の事務局を請け負っています。鳴瀬川はガンカモ類のオオハクチョウやコハクチョウの重要な生息地であるにもかかわらず、モニタリングサ

イト 1000 の調査地として登録されていません。今回の調査を実施する事は環境省の調査を補完する上でも重要な調査となります。数年後にはモニタリングサイト 1000 の調査地登録も目指しています。

モニタリングサイト 1000 は全国の約 1000 箇所において 100 年以上継続してモニタリングすることを目指していて、これまで研究者や市民調査員が中心となって調査が実施されてきました。しかし、上述したような調査員の担い手不足が大きな課題となっています。



調査はエイジス独自で開発した機材とカウントのノウハウを用いて実施しました。今までの鳥類調査の手法とエイジスのノウハウが組み合わせられれば、新しい鳥類調査の手が確立できそうです。

《本件に関するお問い合わせ先》

株式会社エイジス 服部剛典

電話:043-213-2006 メール:takenori.hattori@ajis-group.com

<https://www.ajis.jp/>

NPO 法人バードリサーチ 佐藤望

電話:042-401-8661 メール:sato@bird-research.jp

<http://www.bird-research.jp/>